

氏名(本国籍)	李 豊 (中華人民共和国)
学位の種類	博士(農学)
学位記番号	農博甲第 432 号
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 13 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項該当
研究科及び専攻	連合農学研究科 生物生産科学専攻
研究指導を受けた大学	岐阜大学
学位論文題目	中国における農家世帯員の就業構造に関する研究 —河南省小麦生産地域を対象として—
審査委員会	主査 岐阜大学 教授 今 井 健 副査 岐阜大学 助教授 荒 井 聡 副査 信州大学 教授 佐々木 隆 副査 静岡大学 教授 小 嶋 睦 雄

論 文 の 内 容 の 要 旨

中国では 1978 年から改革開放政策が実施され、農村地域では「家族生産請負制」の導入に伴い農業生産が向上した。他方、農村地域と都市地域の経済格差が拡大し、経済的後進地域である農村から先進地域である都市に向かい大量の出稼ぎ労働者の移動が発生し、深刻な社会問題となっている。本論文の目的は、このような経済の変革期に、内陸地域である河南省における農家の就業構造の変化を調査分析し、それが農業経営にどのような影響を与えているかを明らかにすることである。

本論文では、内陸地域に位置する畑作地域である河南省における農家世帯の就業構造および「三農問題」(農村・農業・農民問題)について調査研究を行った。研究対象地域は河南省のある小麦作を主作とする農村(2ヶ村)とし、さらに都市への農村労働力流出を考察するために、河南省の省都である鄭州市における労務市場(農民工市場)や建設現場などのインタビューを実施した。また、良質小麦の生産基地にある2ヶ所の龍頭企業において、生産農家との関係を聞き取り調査した。

本論文では、以上のような調査データに基づいて、河南省農村2ヶ所村の構造や内包する諸問題について、そして、統計のデータや、河南省における4,200戸のサンプル調査の一次集計したデータを用い、内陸農村農業や、農民就業の実態などの課題について分析し、今後の農家による経営改善の可能性について検討した。

まず、序章では、本論文の目的および研究の方法と、研究地域とを概観し、第二章では、農村労働力移動の概念や形態を分類した上で、労働力移動の要因について論じ、さらに2000年人口センサスを用いて、中国における農村労働力に関する統計上の特徴を分析した。

第二章では、河南省農業の実態と出稼ぎ農民について、鄭州市内の2ヶ所(鄭州市労務市場、日系合弁企業)での現地調査をもとに、内陸部の都市における出稼ぎ労働者の就業実態について分析した。

第三章では、河南省で 2004 年に実施された『農村労働力に関する統計調査』の個表集計表にもとづいて、経営規模階層別農家収入の構成や農家世帯員の年齢階層別および教育歴別就業形態を分析し、農村世帯員の就業変化の特徴とその要因について分析した。

第四章では、出稼ぎ労働者が発生するメカニズムや要因を解明することを目的とし、出稼ぎ農民の送り出し主体である農家および地元農村を調査の対象とし、農業経営と出稼ぎとの関係について調査分析した。

第五章では、良質小麦生産がもっとも盛んな地域を対象として、「小麦の産業化」のモデルとする河南省の延津県の契約栽培の事例を取り上げ、食糧栽培農家の経営実態を踏まえて、龍頭企業により形成された地域組織の下で、農家の生産向上と収入の安定化を図ることができるか、いわゆる農家による経営改善の可能性について検討した。

本論文では以下のような結論を得た。

①出稼ぎ農民は地域労働市場で建設業のほか、最低辺の雑業的業種を担っていること、このように、出稼ぎ労働市場に階層性があることが分かった。

②出稼ぎ農民の雇用形態は地縁・血縁関係など前近代的な縁故関係が支配し、また出稼ぎ農民の労働条件が社会的にほぼされていないために、特に雑業的な業種では賃金不払い問題など社会的な問題が主要な課題となっている。

③出稼ぎ農民のいる農村では農業所得を上回る出稼ぎ収入があり、その出稼ぎ収入によって農業機械の購入などが行われるため、農家間の収入格差が一層拡大し農家の階層分化が世帯員の多い農家、経営規模の大きい農家ほど優位に進んでいることが解明された。

④農村世帯の最高収入階層では「農業以外の家庭経営収入」が主要な収入源となっているが、全体としては賃金収入、すなわち被雇用条件が、農家間の収入格差の主要な要因となってきたといえる。農業収入については、経営面積が大きいほどその絶対額は多いが、農家の総収入に対する農業収入の割合は低下してきている。

⑤農村世帯員の農外就業には年齢階層別の分化が見られ、20 歳前後の若年労働力はその半数が農外産業に従事し、しかもその多くが地域外に他出して就業している。30 歳以上の中高年齢者の 8 割以上は自家農業に従事しているように、年齢層の違いにより就業形態が分化している。

⑥そのような就業形態の分化は、都市地域を中心として形成された労働市場の構造によって規定されており、一般的には若年労働力需要に偏っている。若年農外就業者の賃金水準は農業収入の約 2 倍にもなっている。また農外就業による収入額は教育歴など「労働力の質」による差異がみられる。

⑦このような年齢階層（「労働力の質」）による就業形態の分化は、都市労働市場の構造に規定されているといえる。30 歳以降の就業者、農村への還流があるように出稼ぎは都市労働市場から排出される構造になっている。したがって、零細農家の農業は、その所得水準が非自立的な経済水準のままでも、維持されざるを得ない。また農業産業化政策のもとで進められている龍頭企業による生産の組織化の効果も限定的なものとならざるを得ず農業の近代化は直線的には進まないと考えられる。

審 査 結 果 の 要 旨

中国では 1978 年の改革開放以降、経済が著しく発展する一方、農村地域と都市地域の経済格差が拡大し、農村から大量の出稼ぎ労働者の移動が発生し、深刻な社会問題となっている。本論文の目的は、このような経済の変革期に、内陸地域に位置する河南省を対象として、出稼ぎ農民の就業実態調査にもとづき、労働力流出のメカニズムと農業経営の変化を実証的に解明し、農家の就業と経営改善の可能性を検討することである。

研究方法は、河南省の農家を対象とした 4,200 戸の統計調査個表の再集計など統計データによる分析、省都鄭州市における労務市場（農民工市場）や建設現場などでのインタビュー、小麦生産を主体とする農村での農家調査および「農業産業化」の中心である龍頭企業調査結果の分析である。

本研究では以下のような結論を得た。

第 1 に、農外就業をしている農民の就業形態は、経済発展地域の製造業だけでなく、省内の建設業や最低辺の雑業的業種を担っており、多様化しつつ増加してきている。しかし、労働市場が都市労働者と農民工とに分断され階層的構造をなし、出稼ぎ農民の労働条件が社会的に整備されていないために、賃金水準が低だけでなく、賃金不払い問題など社会的な問題が主要な課題となっている。

第 2 に、農外所得が農業所得を上回り、農外就業者の有無によって農家間の収入格差がみられ、農家間の所得格差は賃金収入など農外就業条件が基本的要因となっている。農外収入によって農業機械の購入などが行われるため、農家の階層分化は世帯員が多く経営規模の大きい農家ほど農業生産条件も優位にある。しかし農家の農業収入については、経営面積が大きい農家ほど絶対額は多いが、農家の総収入に対する農業収入の割合は低下してきている。

第 3 に、農村世帯員の農外就業には年齢階層別の分化が見られ、20 歳前後の若年労働力の多くは遠隔地域への出稼ぎなど農外産業に従事し、30 歳以上の地元通勤兼業に変化している。そして専門的な農業就業者は 50 歳以上の中高年齢者が多くなっているように、年齢層の違いにより就業形態が分化している。

このような年齢階層による就業形態の分化は、都市労働市場の構造に規定されているといえる。30 歳以降の就業者、農村への還流があるように出稼ぎは都市労働市場から排出される一方、地方都市（小城镇）の非農業就業機会が増加し、かつ賃金水準が相対的に向上しているため、通勤兼業農家が増加している。

第 4 に、また農業産業化政策のもとで進められている龍頭企業による生産の組織化の効果も穀作地域の農家の農業所得向上効果としては限定的である。したがって零細農家の農業は、その所得水準が非自立的な経済水準のままでも兼業形態で維持されざるを得ず、農地の流動化が進展しないために、農業経営の規模拡大による近代化は進まないと考えられる。

以上について、審査委員全員一致で本論文が岐阜大学大学院連合農学研究科の学位論文として十分価値あるものと認めた。

学位論文の基礎となる学術論文は以下の通りである。

1. 李 豊、今井 健 「中国河南省における出稼ぎ農民の就業実態の解明」『農業市場研究』13 巻 2 号 P119～122 2004、12
2. 李 豊、原 任利、今井 健 「中国における農村世帯間の収入格差の拡大と世帯員の就業形態について—中部畑作地域・河南省を対象とした統計資料分析—」『農業市場研究』14 巻 2 号 P105～109 2005、12